

▶ハノイ市のロンビエン市場には国内外の食材が数多く売られていた。



▶南国フルーツが印象的で、色鮮やかに陳列されていた。



▼ホーチミン市では建設途中のビルやマンションが建ち並んでいた。



特集 現地レポート

津軽からベトナムへの輸出が始まったこともあり、現地を見聞。

越南

輸出解禁で注目を集めるベトナムは今…



▲店頭には弘前リンゴ

ベトナムにおける青森リンゴ販売事情の視察において、見たこと、感じたことを紹介していこうと思う。目の前に広がる光景は、もはや発展途上ではなく、想像以上の進化を遂げていた。高層ビル、大型ショッピングモール「イオン」が印象的だった。

当JA販売課 米澤がベトナムの視察研修で見た光景と、感じた想いに密着取材

「テト」のお供えにリンゴも…

今回現地を訪れた時期は、ベトナムの旧正月を祝う「テト」が近いこともあり、お供えとしてドラゴンフルーツだけではなく、「神の手」として呼ばれるブッシュカン（写真右）も販売されていた。



※ブッシュカン（仏手柑）とは、「カボス」「ユズ」などと同じ香酸柑橘類の一種。

日本の安心安全なリンゴを求める人が増加



近年、ベトナムでは富裕層が増加の傾向にあり、美味しさや価格よりも「安心・安全」な日本産高品質リンゴの需要が高まっている。特に「金星」が甘くて美味しいと人気だ。



日本あおもりフードフェアが開催されていた。



店内ではリンゴジュースも販売され、試飲で足を止めるお客さんが多く、その場で買い求める人が多かった。



和を感じられるレイアウト

リンゴを通じて「あおもり」が日本を伝える

ベトナムに輸出している国、第一位は中国であり、韓国に続く第三位は日本である。日本の食や文化を伝えるとともに、現地の人に「あおもり」の魅力を知ってもらえる良い機会だと感じた。青森ねぶたや八戸三社大祭の写真も飾られ、青森県へ訪れるベトナム人観光客が増えることも期待できそうだ。また、リンゴだけではなく、八戸漁港で水揚げされた海の幸を使った商品も人気を呼んでいた。

今回のベトナム視察を終えて…



販売課 米澤 松太

2015年産からリンゴの輸出が解禁され、2016年産は13万箱（10k）が輸出される予定となっている。輸出の条件として、輸出生産園地の事前登録・生育状況や収穫前の検査・有袋栽培を義務付けた厳しい現状と

なっている。しかし、ベトナムでは正月前に親しい人やお世話になっている人に贈り物をする習慣があることから、青森県産リンゴがお供え物や贈答用としての需要が見込まれば大きな市場となることが期待される。厳しい輸出条件がありながらも継続的に輸出することが必要だと感じた。

輸入会社「トゥーフン」

上・中流階級の客層を多く持つ輸入会社「トゥーフン」は高級感がある商品づくりに力を入れているという。



輸入会社「トゥーフン」副社長（写真中央）のパン・オン氏と意見を交わす視察団ら。ここでは、あおもり県産りんごの手ごたえを感じた。